第３編　西宮市の少子化の現状と課題

１　人口の動向 …… 11
　（１）人口の推移 …… 11
　（２）出生の動向 …… 12
　（３）婚姻の動向 …… 15

２　家族や就業の状況 …… 16

３　保育等の状況 …… 18

４　子育てに関する意識 …… 21

５　地域における子育ての環境 …… 25

６　現状分析のまとめと基本的な課題 …… 27

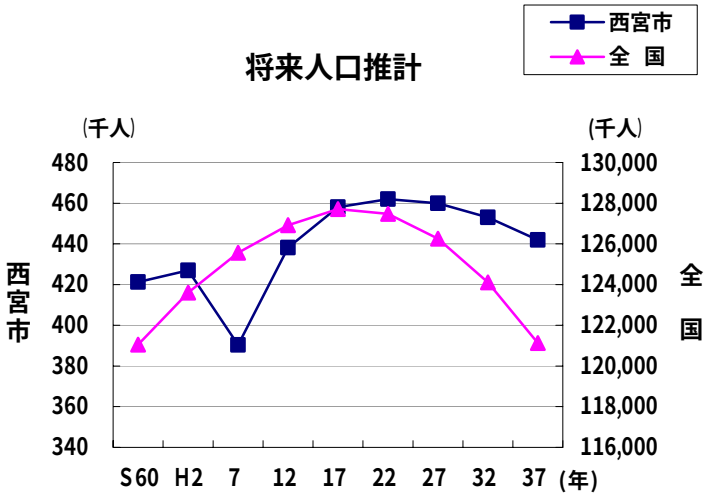
第３編　西宮市の少子化の現状と課題

１．人口の動向

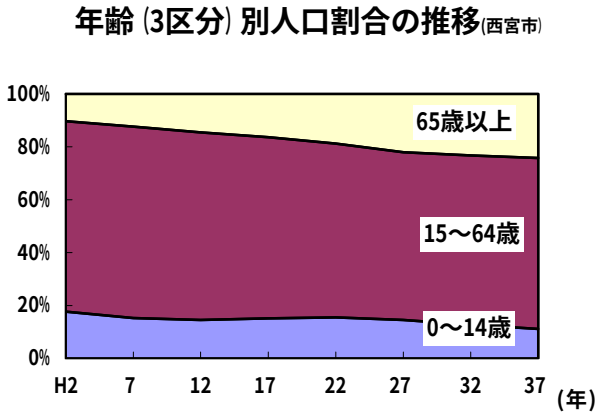
（1）人口の推移

西宮市の人口は、平成 12 年の国勢調査では 438,105 人でしたが、平成 16 年 10 月 1 日現在の推計人口は 459,448 人と急増しています。平成 13 年に行った将来人口推計では、平成 22 年の 462,000 人をピークに減少していくと推測していましたが、それを上回る勢いで増加しています。

また、年齢（3 区分）別人口割合で見ると、年少人口（0～14 歳）の割合は平成 2 年には 17.7%でしたが、平成 12 年には 14.5%まで減少しています。今後は、平成 22 年までは微増が見込まれますが、その後は減少していくと推測しています。一方、65 歳以上の人口は、年々増加傾向で推移し、平成 27 年には 22.0%になると推計しており、少子高齢化が進むと予想されます。



＜資料＞全国「国立社会保障･人口問題研究所」
西宮市「国勢調査」（平成 12 年まで）、
「西宮市将来人口推計（平成 13 年 4 月現在）」
（平成 17 年以降）

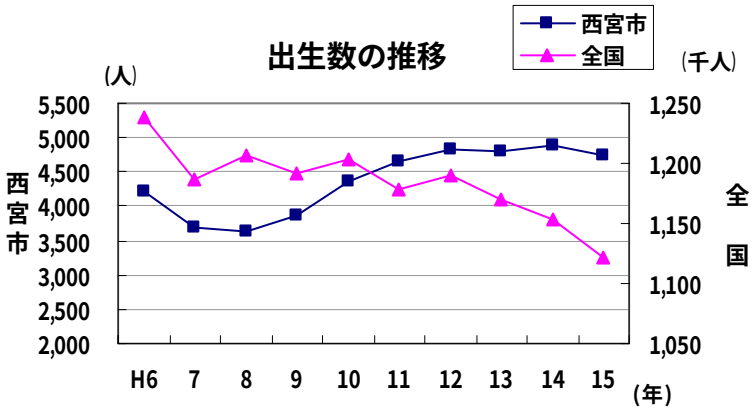


＜資料＞「国勢調査」（平成 12 年まで）
「西宮市将来人口推計（平成 13 年 4 月現在）」
（平成 17 年以降）

（２）出生の動向

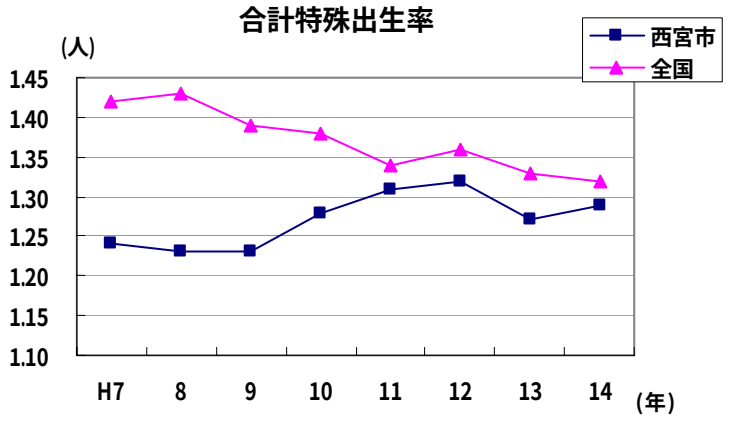
全国的に出生数は大幅に減少していますが、西宮市では、現在、横ばい状態が続いています。これは、20～30 代女性人口の推移が、全国は減少しているのに比べ、西宮市は増加していることが要因の一つと思われます。

今後の出生数は転入による人口増加が落ち着くとともに、全国と同様に減少していくと予測されます。



＜資料＞全国「国立社会保障･人口問題研究所」
西宮市「統計だより」

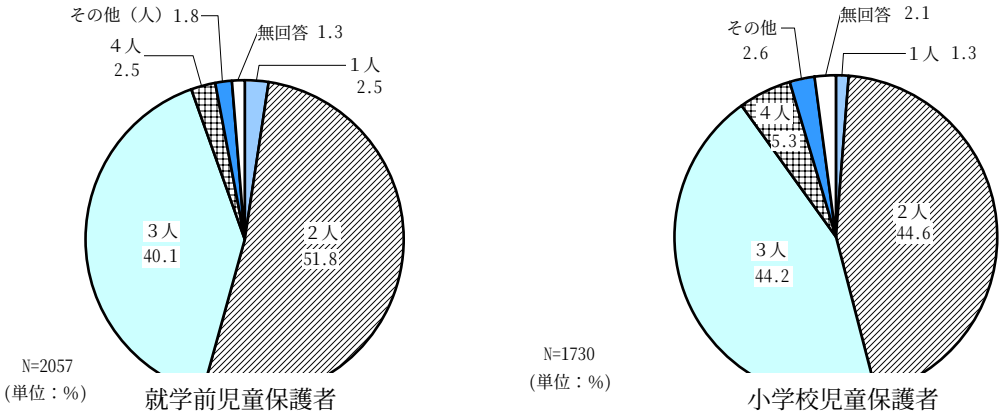
西宮市の合計特殊出生率は以前より低水準で、全国を大きく下回っている状態でした。しかし、平成 10 年ごろからは、全国数値に近づいてきています。



＜資料＞厚生労働省「人口動態統計」
西宮市「情報公開室資料」

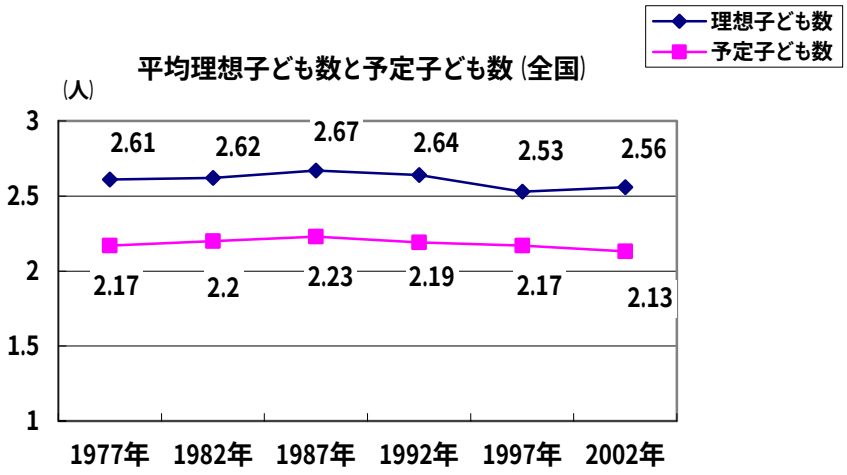
「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」（以後、ニーズ調査という）によると、合計特殊出生率は年々下がっているものの、「望ましい子どもの人数」で２人以上と答えた人は、就学前児童保護者（以後、就学前児童という）94.4%、小学校児童保護者（以後、小学校児童という）94.1%、19～35 歳の市民（以後、成人という）78%となっています。

望ましい子どもの人数



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

また、「第 12 回（2002 年）結婚と出産に関する全国調査（国立社会保障・人口問題研究所）」（以後、全国調査という）によると、平均理想子ども数は 2.56 人であるのに対し、平均予定子ども数は 2.13 人と若干下回っています。

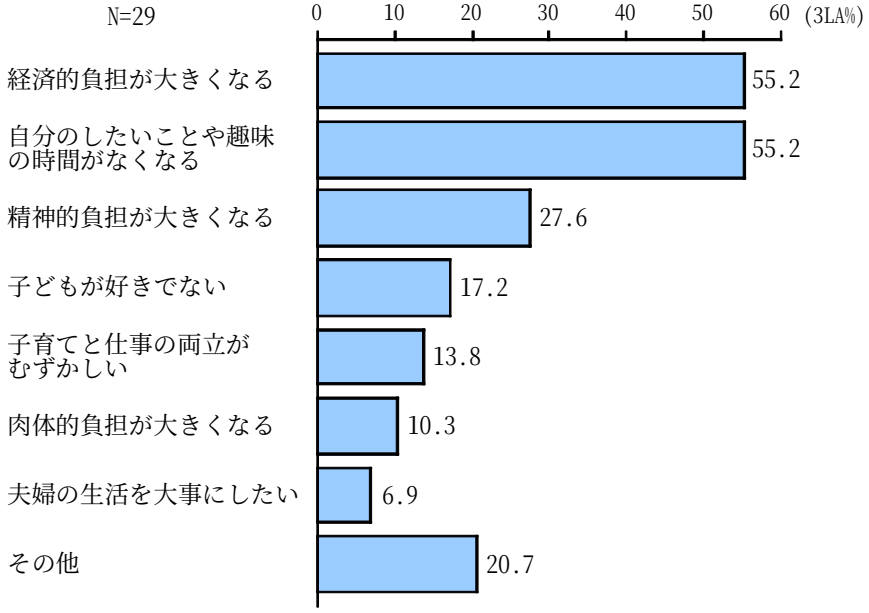


注： 初婚どうしの夫婦（理想子ども数不詳を除く）について。

＜資料＞第 12 回結婚と出産に関する全国調査（国立社会保障･人口問題研究所）

成人で子どもはいらないと答えた人（5.4%）に理由をたずねたところ、経済的負担が大きくなる（55.2%）と「自分のしたいことや趣味の時間がもてなくなる」（55.2%）が最も多くなっています。全国調査でも、予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦に、その理由をたずねたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」がどの年齢層でもトップとなりました。また、若い層ほどこの理由を多く選んでおり、20 歳代では８割を超えています。

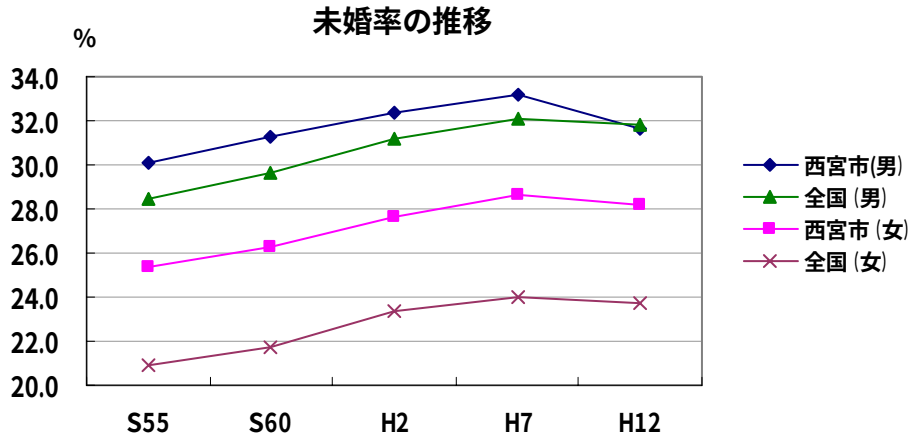
子どもがいらない理由（3つまで選択）



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

（３）婚姻の動向

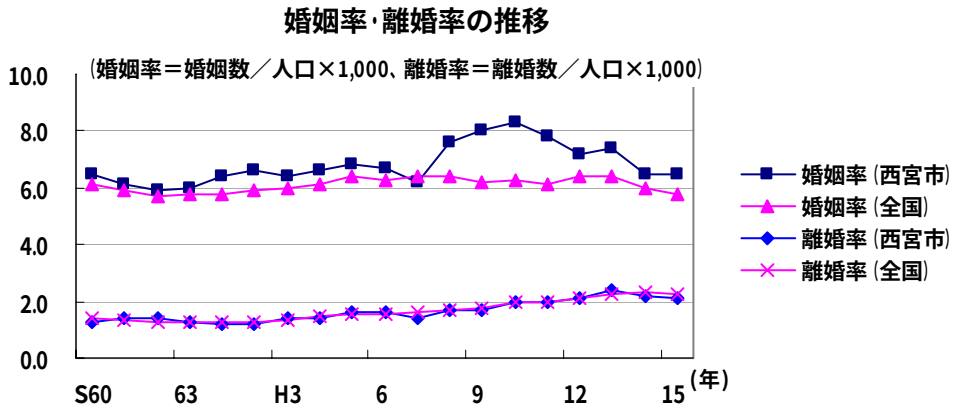
少子化要因の１つとされている未婚率は、西宮市と全国について男女とも平成 12 年は平成 7 年に比べると下回っています。全国の平均と比べると、西宮市は男女とも未婚率は高い数値でしたが、女性の未婚率は、近隣都市の中でも 1 番高い数値になっています。西宮市のニーズ調査（成人対象）によると、結婚に対して負担に感じられることでは「行動が制約される負担（42.9%）」が多く、次いで「仕事と家庭を両立させる負担(29.8%)」「経済的負担(29.8%)」となっています。また現在独身である理由については、「年齢がまだ若いから(35.6%)」が最も多く、次いで「異性にめぐりあえない、うまくつきあえないから(34.7%)」や「自由や気楽さを失いたくないから(27.5%)」となっています。25~29 歳女性においては「家の居心地がいいから(13.2%)」が 1 割を超えていました。



＜資料＞全国「国立社会保障・人口問題研究所資料」
西宮市「兵庫県総合統計」

西宮市における婚姻率（人口千対）については、平成 7 年以降、全国と比べると高い数値になっています。特に平成 10 年（8.3）には全国（6.3）を大きく上回っていましたが、平成 10 年をピークに全国の数値に近づいています。

離婚率については、西宮市は全国とほぼ同じで、長期的に上昇傾向にあります。



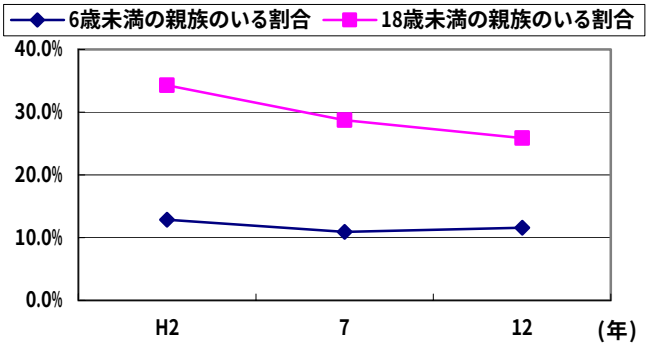
＜資料＞厚生労働省「人口動態統計」
西宮市「平成15年西宮市統計書」

２．家族や就業の状況

（１）世帯の動向

「18 歳未満の親族のいる」世帯数は、平成 2 年では一般世帯数の 34.3%だったのに対し、平成 12 年では 25.9%に減っています。それに比べて「6 歳未満の親族のいる」世帯数の割合は、ほぼ横ばい状態になっています。

一般世帯数における子どものいる世帯の割合



＜資料＞西宮市統計書「国勢調査」

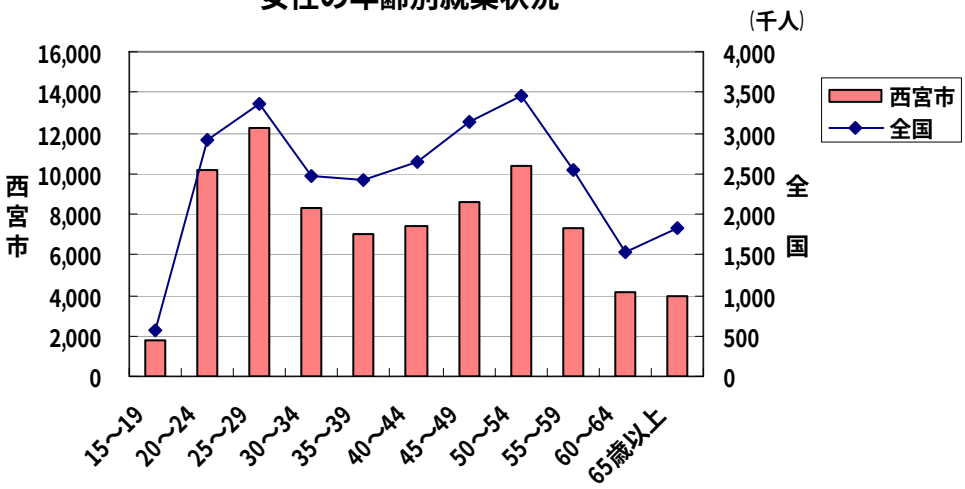
（２）就業状況

西宮市の就業者数は、平成 12 年の国勢調査によると、総数 217,884 人のうち、女性が 85,248 人と従業者数全体の 39.1%を占めています。

また、平成 12 年の女性の年齢別就業状況（15 歳以上）を見ると、全国と同様に西宮市でも 20～24 歳で急増した後、25～30 歳でピークを迎え、30 歳代で落ち込んでいますが、その後少しずつ増え、50～54 歳で次のピークを迎えます。

全国調査によると、女性就業者に占める子どもを持つ割合(40%)は、専業主婦の子どもを持つ割合(76%)に比べて格段に低く、出産に際して就業を継続せず専業主婦となる就業者が多いことをうかがえます。

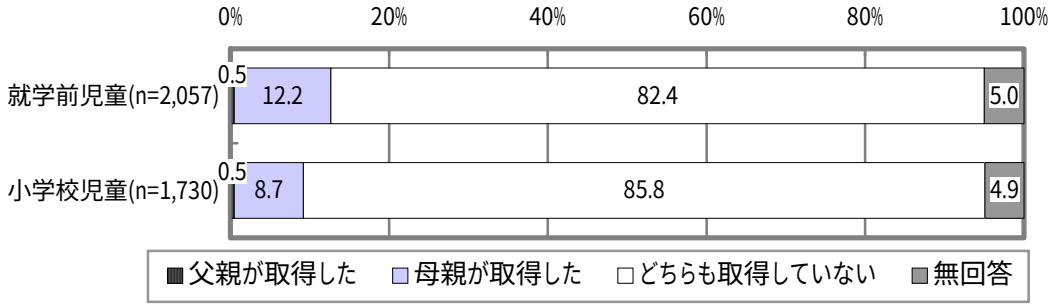
女性の年齢別就業状況



＜資料＞総務省統計局「H12国勢調査」
西宮市統計書「H12国勢調査」

出産や育児のために仕事をやめた母親は、就学前児童で 33.7%になっています。そのうちの43.9%が「子育てに専念したかったから」と回答しています。また、就学前児童では、育児休業を取得しなかった理由として「退職したから」が 23.9%。「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから」が 19.0%となっています。

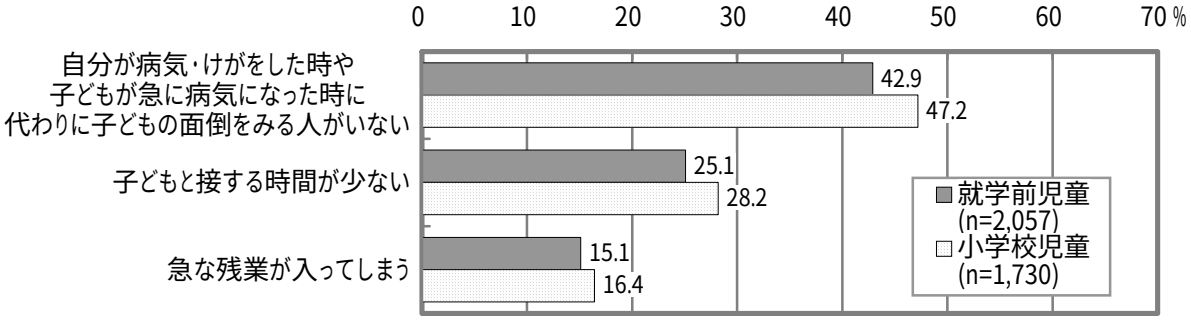
育児休業の取得状況



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

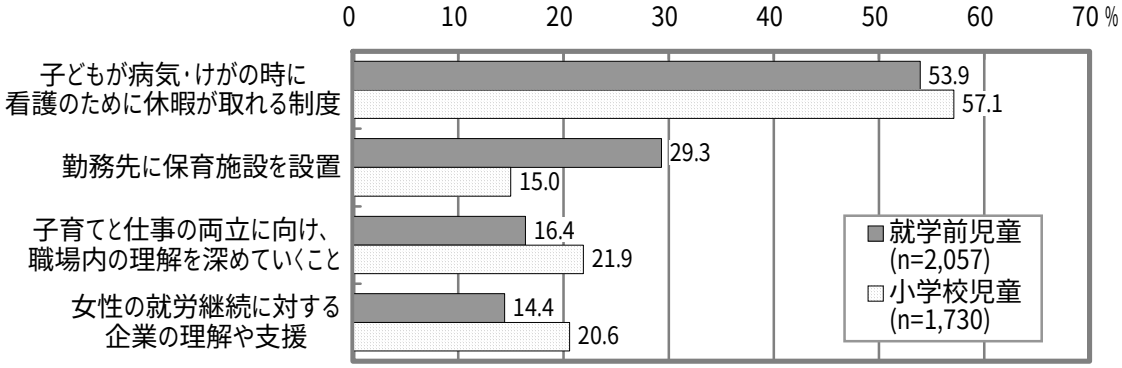
子育てと仕事を両立させるために企業等に取り組んでほしいこととして、ニーズ調査の全対象で「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」が最も多く、次いで就学前児童は「勤務先に保育施設を設置」、小学校児童は「職場内の理解」、成人では「育児休業等などの制度が円滑に利用できる環境づくり」となっています。

仕事と子育ての両立で大変だと思うこと



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

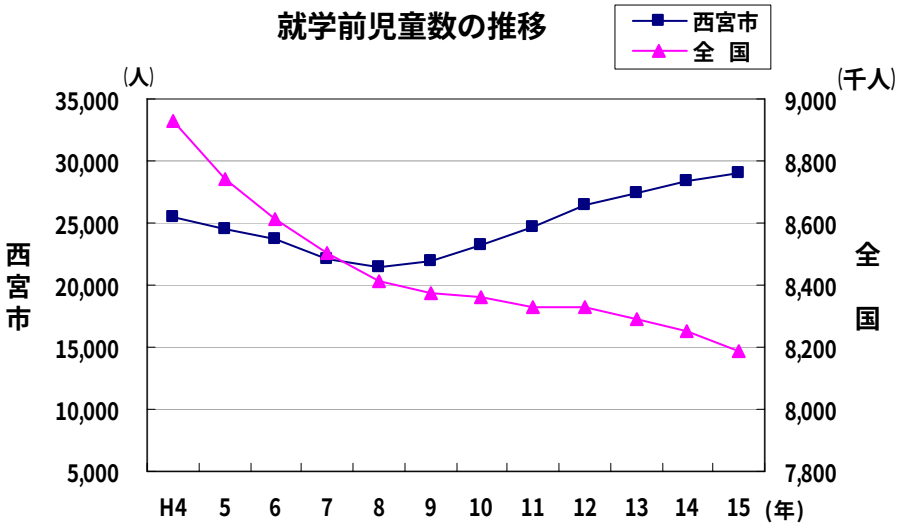
子育て支援で企業等に取り組んでほしいこと



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

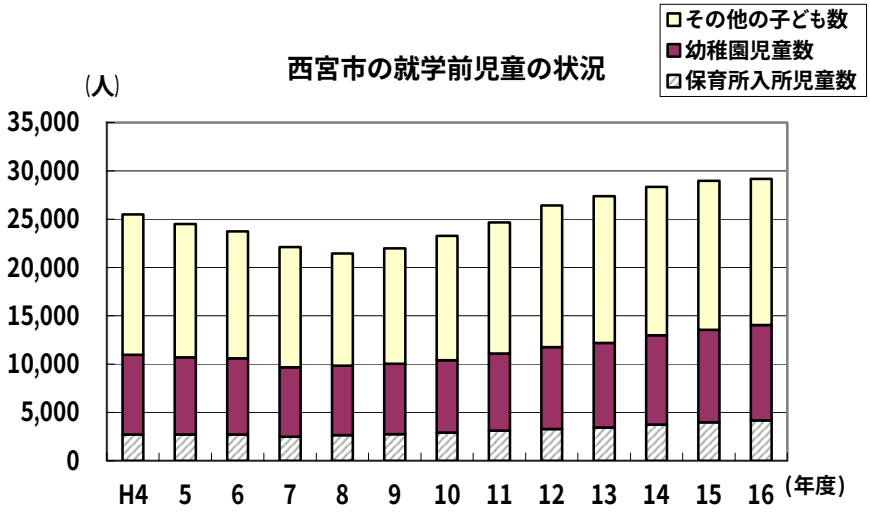
３．保育等の状況

就学前児童数については、全国は減少していますが、西宮市は、年々増加しています。これは、転入及び、20～30 歳代女性人口の増加による出生数の増加によるものだと推測されます。



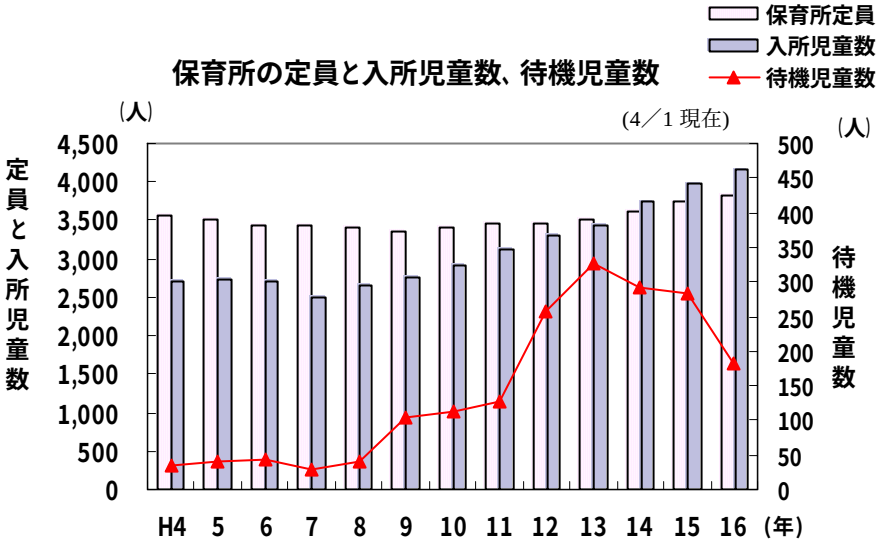
<資料>全国「総務省統計局10/1現在0～6歳人口」
西宮市「健康福祉局福祉部5/1現在就学前児童人口」

西宮市の就学前児童の状況をみてみると、保育所入所児童数は、ほぼ毎年増加しており、平成 16 年では就学前児童数の約 15%となっています。幼稚園児童数は、就学前児童数の約 35%となっています。



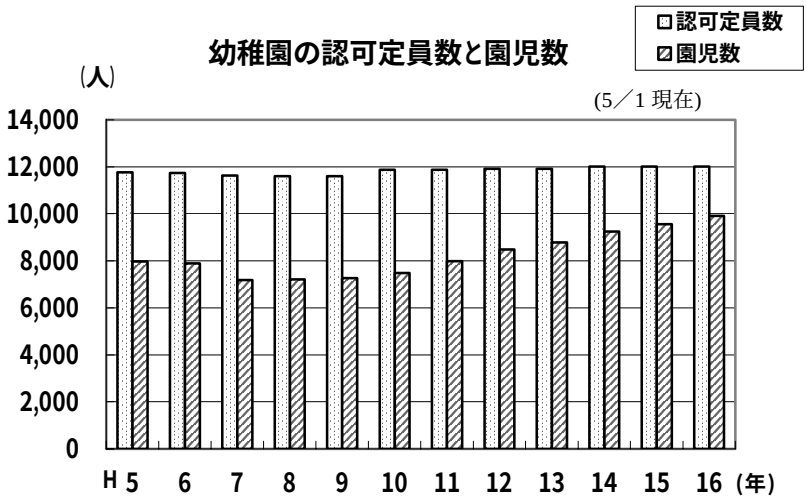
<資料>西宮市健康福祉局福祉部資料

西宮市では少子化の進行で就学前児童数が減少傾向であったため、平成 9 年までは保育所の定員を見直し、削減していました。しかし、阪神・淡路大震災後の復興による子育て世代の転入の増加、女性の社会進出が促進されたことなどによる要保育児童の増加などから、待機児童数が急増しました。そのため平成 10 年から保育所定員数を増加したり、また平成 13 年からは保育所を新設するなどして待機児童の解消に努めていますが、今後も緊急の課題となっています。



<資料>西宮市健康福祉局福祉部資料

幼稚園の認可定員数については、平成 14 年以降変化はありませんが、園児数は、平成 7 年以降増加傾向にあります。

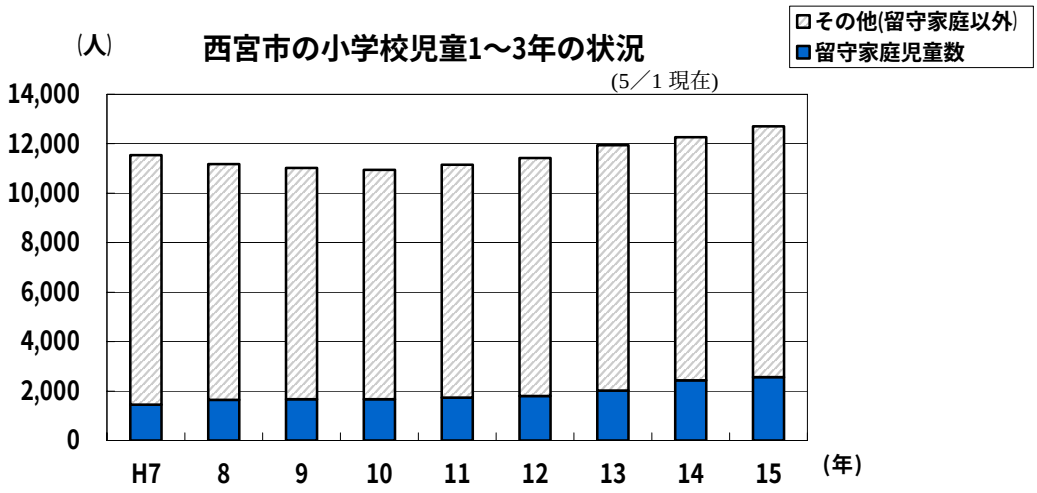


<資料>西宮市教育委員会資料

西宮市の小学校児童（1～3 年）の状況をみてみると、小学校児童（1～3 年）における留守家庭児童※ の割合は平成 7 年から増加し続けています。

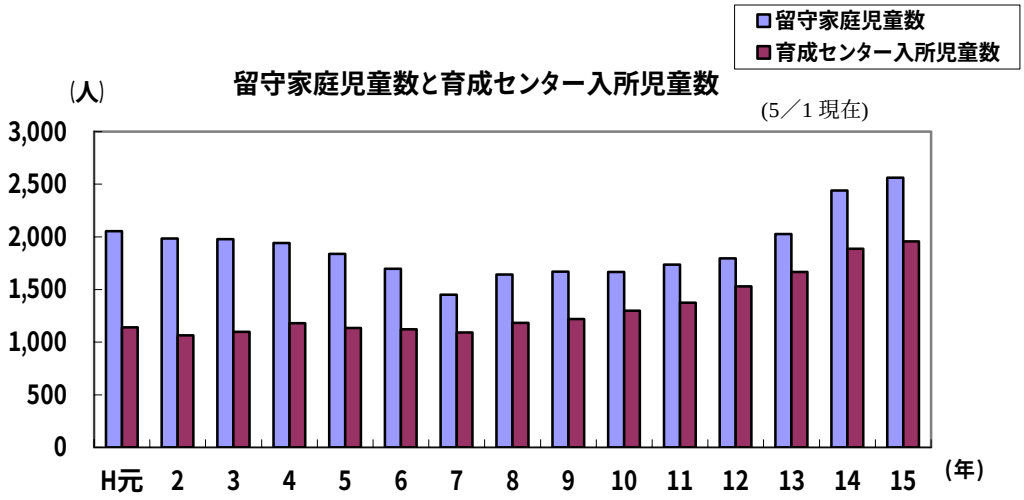
ニーズ調査で「子育てしながら働きたい」との回答が成人対象調査で 44.6%あったことや、現在無職の母親の約半数（就学前児童 59.7%、小学生 48.6%）が「今後働きたいと考えている」と答えていることから、今後も増えていくことが予想されます。

※留守家庭児童とは、保護者が就労等により昼間家庭にいない 1～3 年生の児童。



<資料>西宮市健康福祉局福祉部資料

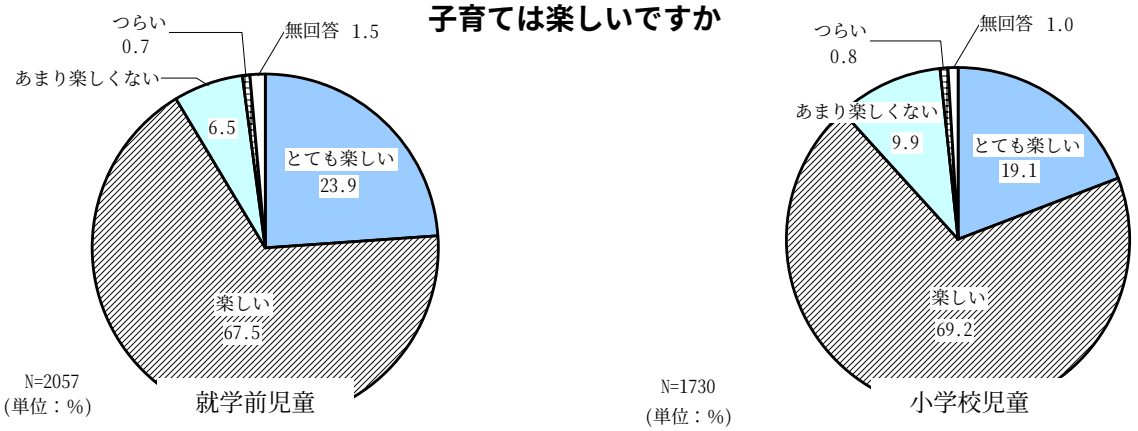
留守家庭児童育成センターの入所児童数を見てみると、平成元年では留守家庭児童数の約半数程度であったものが、平成 7 年以降は 7 割を超え、平成 15 年まで 8 割前後で推移しています。



<資料>西宮市健康福祉局福祉部資料

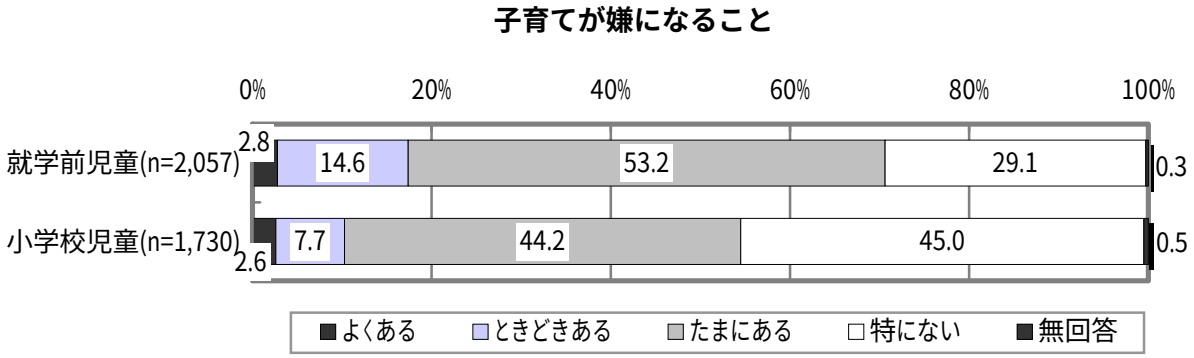
４．子育てに関する意識

ニーズ調査によると、就学前児童では９割、小学校児童も８割以上が子育ては楽しいと答えています。全国調査でも、（理想的な子どもの数を１人以上と答えた夫婦にたずねたところ）どの年齢層でもほぼ８割の人が「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」と回答しています。また、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は年齢が高いほど多く回答していますが、若い層ではそれに代わって「好きな人の子どもを持ちたいから」が多く回答されています。「子どもは老後の支えになるから」は若い層ほど多くなっています。一方、子育てが「あまり楽しくない」との回答が、就学前児童が 6.5%、小学校児童が 9.9%となっています。



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

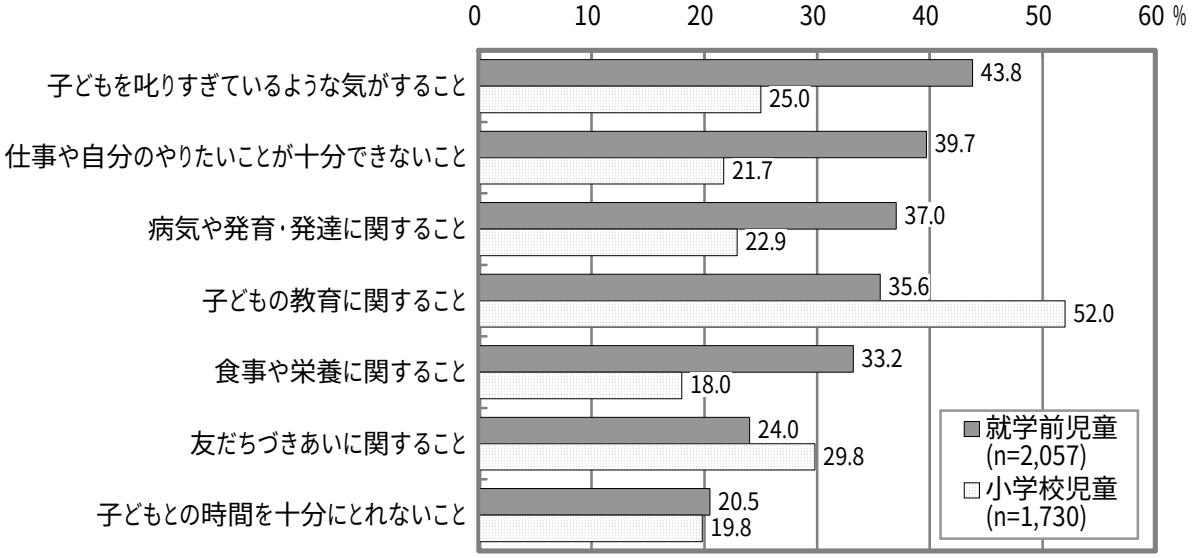
子育てが嫌になることがあるとの回答は、就学前児童で「よく」「ときどき」で17.４%、「たまに」を合わせると70.6%になるのに対し、小学校児童では「よく」「ときどき」で10.3%、「たまに」を合わせても54.5%となっています。また、就学前児童では、育児に自信が持てないことが「よく」「ときどき」「たまに」あるを合わせると75.1%の回答がありました。



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

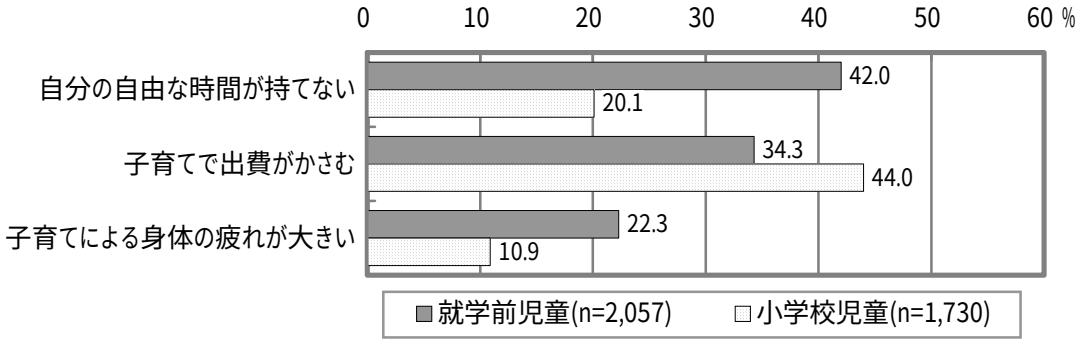
ニーズ調査によると子育てに関して悩んでいることとして、就学前児童では、子どもを叱りすぎているような気がすること（43.8%）や自分の自由な時間が持てないこと（42.0%）が多く、小学校児童では、子どもの教育に関すること（52.0%）や子育てで出費がかさむ（44.0%）が多くなっています。

子育てに関して日常悩んでいること、気になること



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

特に不安や悩みに思うこと

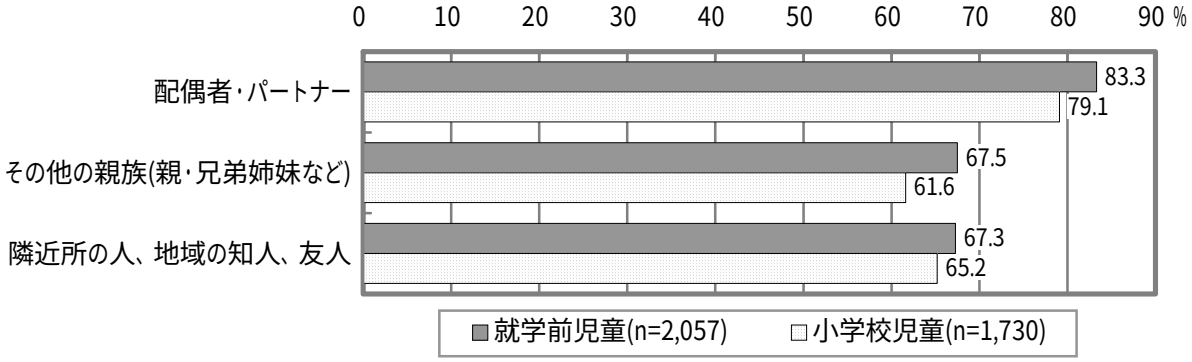


＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

また、子どものしつけと虐待の状況については、子どもに対し厳しすぎると答えた母親が、就学前児童の28.3%、小学校児童の18.9%みられます。このうち厳しすぎると思う内容については、「感情的な言葉」が就学前児童・小学校児童の母親とも８割を超えています。また、就学前児童では「たたくなど」も42.3%を占めています。

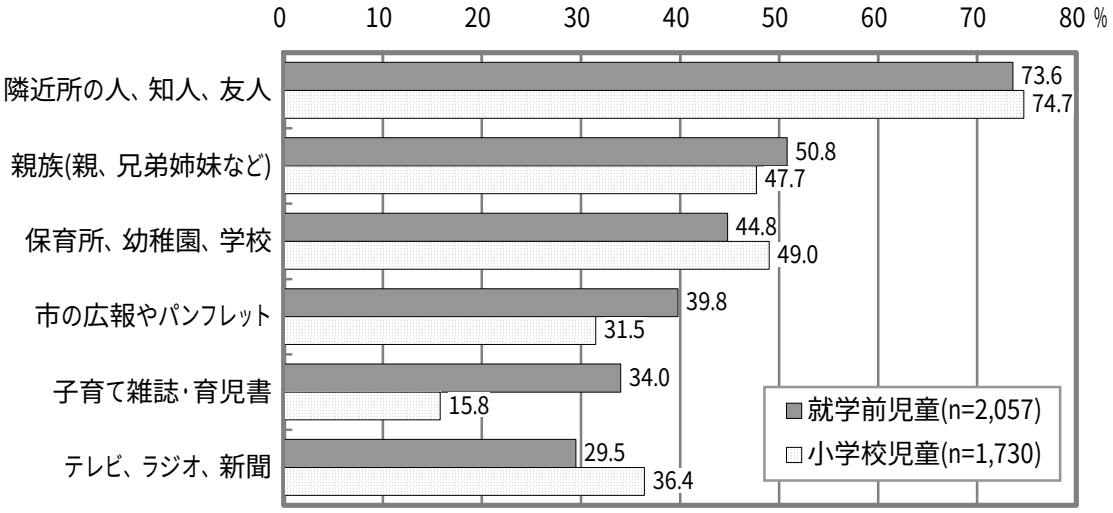
子育てに関する相談は、就学前・小学校児童保護者のどちらも配偶者・パートナーが多くなっています。情報の入手先としては隣近所・知人・友人が多くなっています。

子育ての不安や悩みの相談相手



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

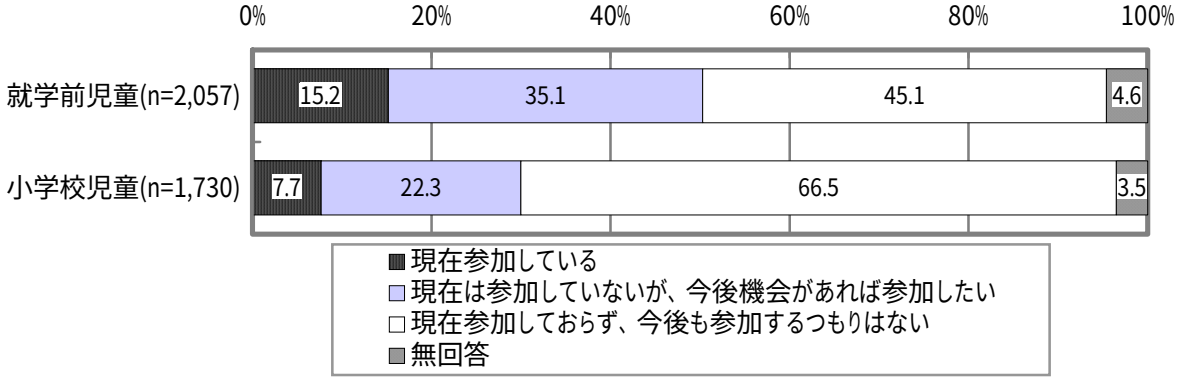
子育てに関する情報の入手先



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

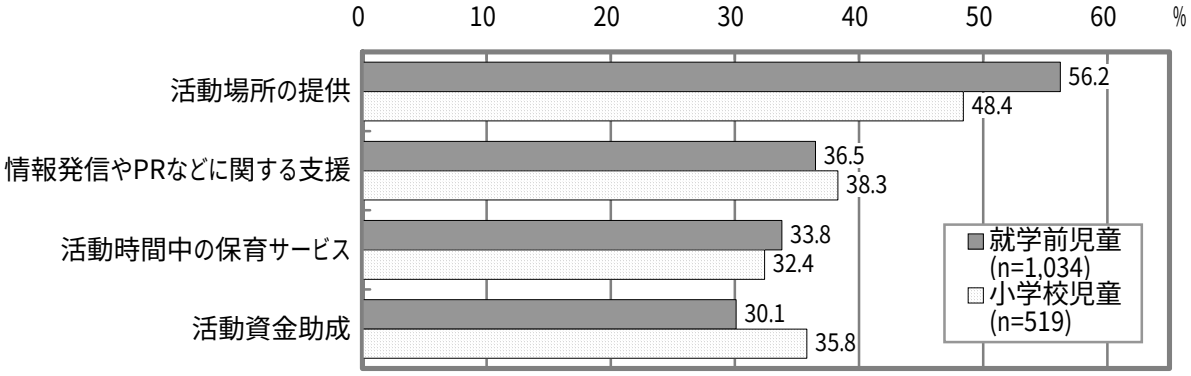
子育てサークル等への参加については、小学校児童より、就学前児童の参加意向が高く、また自主活動に対する支援としては、活動場所の提供が一番多くなっています。

子育てサークル等の自主活動への参加状況



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

自主活動に対する望ましい支援

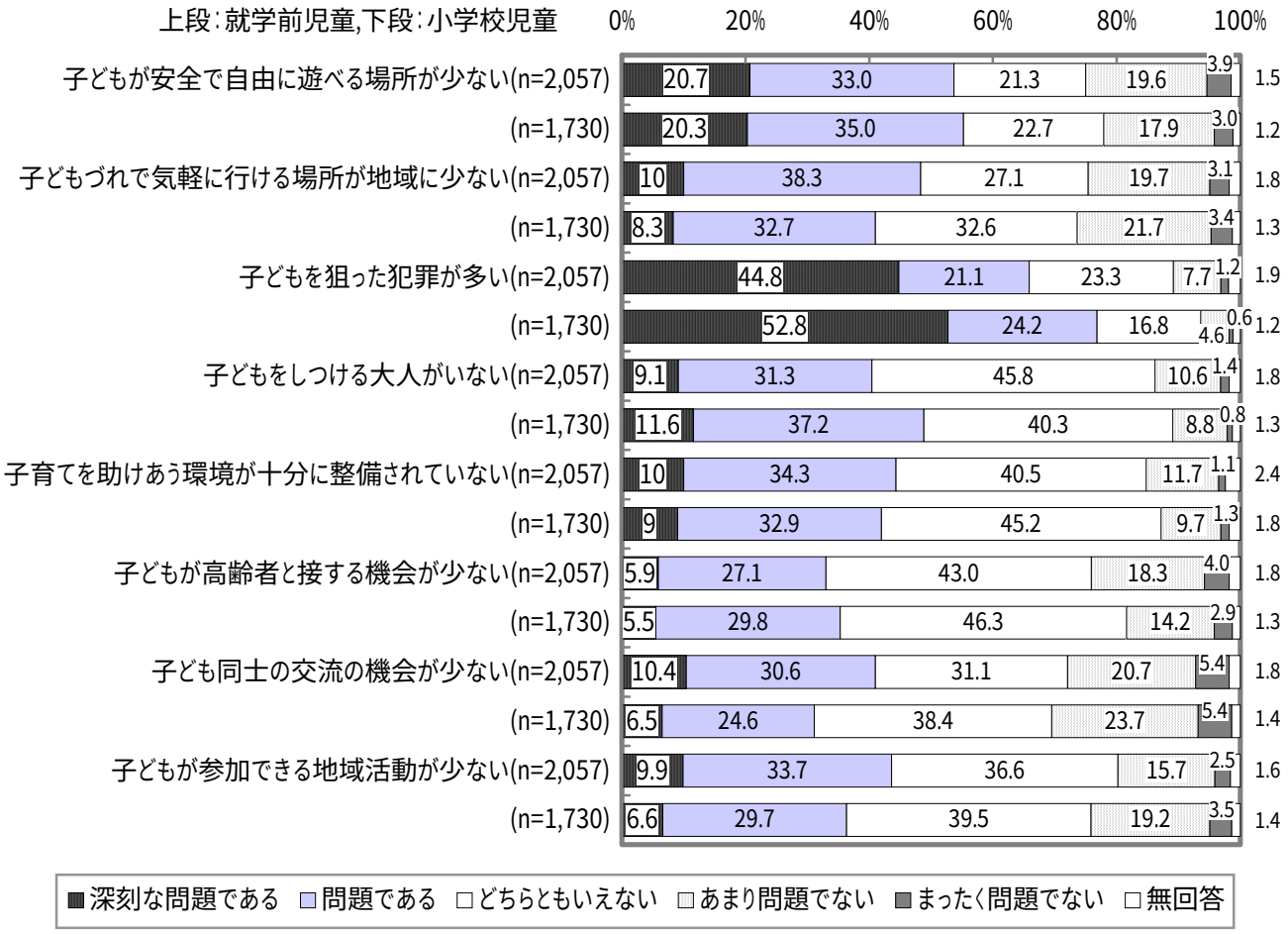


＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

５．地域における子育ての環境

ニーズ調査の地域の子育て環境に対する意識で「子どもを狙った犯罪が多い」ことを就学前児童の 44.8%、小学校児童の 52.8%が『深刻な問題』ととらえています。『問題である』を合わせるとそれぞれ 65.9%、77.0%になっています。「子どもが安全で自由に遊べる場所が少ない」も就学前児童、小学校児童とも過半数の回答者が問題と感じています。

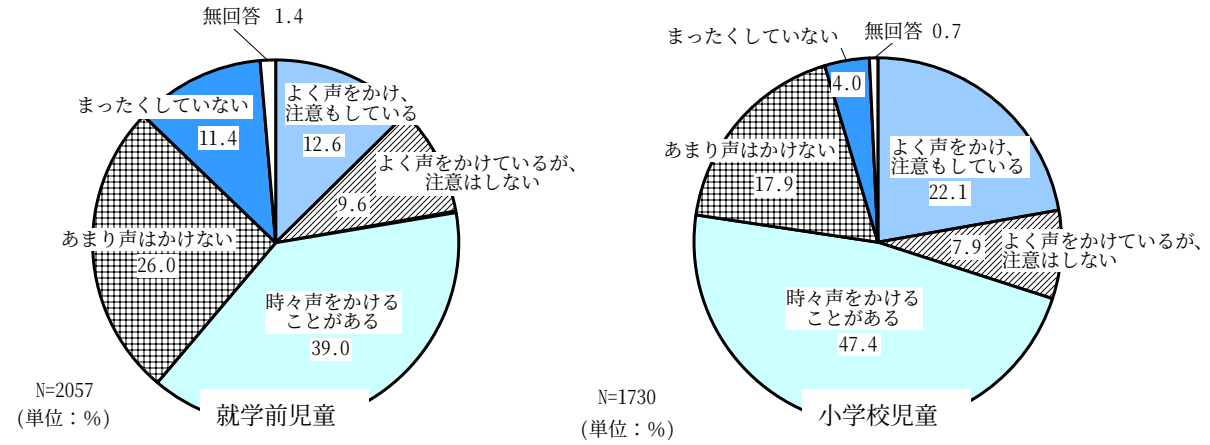
地域の子育て環境



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

地域の子どもたちへの声かけの頻度については、就学前児童と小学校児童ともに「時々声をかけることがある」が最も多くなっています。就学前児童では「あまり声はかけない」（26.0%）が次いで多くなっているのに対し、小学校児童では「よく声をかけ、注意もしている」（22.1%）が次いで多くなっています。また、地域活動や行事への参加状況別にみてみると、「たいていは参加している」人は就学前児童、小学校児童ともに「よく声をかけ注意している」や「時々声をかけることがある」が多くなっています。

近所の子どもたちへの声かけの頻度



＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」

地域活動や行事への参加状況別、近所の子どもたちへの声かけの頻度

上段は就学前児童、下段は小学校児童

	全体（N）	よく声をかけ、注意もしている	よく声をかけているが、注意はしない	時々声をかけることがある	あまり声はかけない	まったくしていない	無回答
全体	2,057	12.6	9.6	39.0	26.0	11.4	1.4
	1,730	22.1	7.9	47.4	17.9	4.0	0.7
たいていは参加している	108	37.0	8.3	47.2	6.5	0.9	－
	278	41.4	7.9	41.0	8.6	1.1	－
時々参加している	632	19.0	11.9	48.4	16.9	3.3	0.5
	970	24.1	8.0	52.3	13.4	1.9	0.3
ほとんど参加していない	705	7.8	10.8	41.4	30.9	8.5	0.6
	376	6.6	7.4	47.3	31.3	6.9	0.5
全く参加していない	573	7.3	6.1	26.2	34.0	25.8	0.5
	94	7.4	8.5	22.3	38.3	23.4	－

＜資料＞「西宮市子育て支援に関するアンケート調査」　　単位：%

６．現状分析のまとめと基本的な課題

（１）　子育て家庭の多くは、子育てにおける肉体的・心理的な負担や教育費を含めた経済的な負担を感じています。特に在家庭においては、社会からの疎外感が強く、子育てに対する負担がより大きいものになっています。子育てすることが本来持つ“楽しさ”が持続できるように支援することが求められています。子育てについての情報交換や専門相談、子育て経験者に気軽に相談できる場や機会が必要です。また、すべての子育て家庭における不安や悩み、さまざまな負担が軽減されるように支えていく必要があります。

（２）　発育・発達、しつけや病気など育児に対して多くの家庭が悩んでいます。安心して妊娠・出産を迎えられるような環境づくりが求められています。夫婦間の協力体制、家族や地域の支えあい、妊婦同士の仲間づくりなどが必要です。また、出産や子育てが家庭にとって大きな負担や不安にならないよう、子育てに安心して取り組めるような保健事業の充実が必要です。

（３）　出産や育児等で仕事をやめる女性がまだ多く、子育ては男女が協力して行うという意識がある一方で、母親の役割とする意識が依然として高いことがうかがえます。子どもの幸せを第一に考え、子どもの利益が最大限に尊重されるように配慮しながら、男女が協力して子どもを生み育て働くことができるようにすることが求められています。事業主に育児休業取得者の円滑な職場復帰の促進や、子育てに配慮した勤務時間の整備など働き方の見直しを働きかけることが必要です。また、家庭における子育て環境の変化に伴う育児の負担感の緩和や多様な就労形態に対応できるような保育サービスの充実が必要です。

（４）　子どもの教育やしつけについては、多くの家庭が悩んでいます。子どもを家庭・学校・地域全体で育てていくということが求められています。特に社会生活をするうえでの基本的なルールや子どもたちの人間性を育んでいく場として、地域の役割が重要視されています。学校、地域住民、関係機関の協力によって、世代間交流を推進し、地域の教育力を向上させ、子育て家庭を支えていく必要があります。

（５）　地域の子育て環境に関する意識調査の中で、「子どもを狙った犯罪が多い」・「子どもたちが安全で自由に遊べる場所が地域に少ない」などが、深刻な問題として挙げられています。子どもが事件・事故に巻き込まれないように、地域みんなの目が子どもに届くようにすることが求められています。子どもを犯罪等の被害から守るための取り組みや被害者に対する心のケアが必要です。また、施設や交通の早期バリアフリー化など、子育て家庭だけでなくすべての人が安心・安全に暮らせるようなまちづくりを進めていく必要があります。